

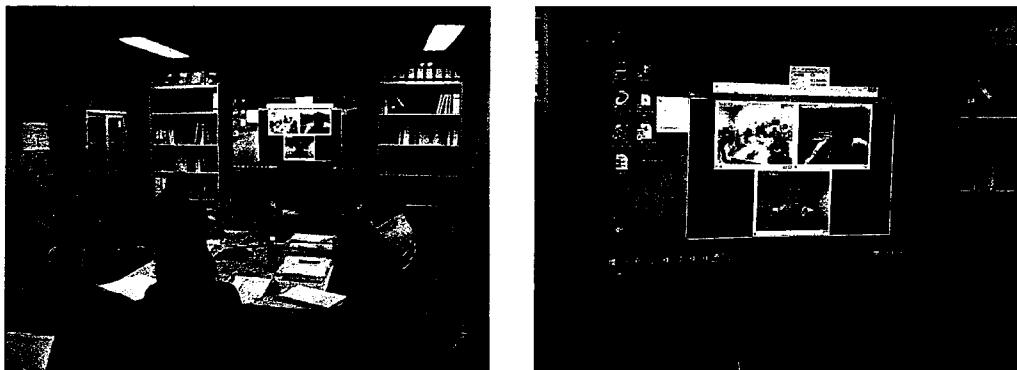
●がん医療部会

資料 1

開催回数	平成25年 7月10日（水）17:30～19:30 平成26年 3月10日（月）17:30～19:30 計 2回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院：7名 がん診療連携支援病院：1名 がん診療医療機関：1名 計 10名
平成25年度の取組	<ol style="list-style-type: none"> 評価指標の検討、ならのがんに関する患者意識調査の調査項目の検討、実施 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の作成、検討 化学療法の均てん化に向けて、がん診療連携拠点病院間での公開カンファレンス実施についての検討 <ul style="list-style-type: none"> がん診療連携協議会（県立医科大学が事務局）での検討 化学療法分科会の開催（5月29日、12月9日） Web会議試験運用（9月17日） 放射線治療地域連携協議会 <ul style="list-style-type: none"> メール会議（7月10日、2月26日） 2病院（県立医大附属病院、天理よろづ相談所病院）のリニアック等の更新に伴う、放射線治療の対応、その他について継続検討 診療情報の提供に向け、現況報告のデータの基準の統一、公表項目の継続検討 地域がん登録の登録作業の継続
成 果	<ol style="list-style-type: none"> ならのがんに関する意識調査の実施、調査結果の分析・検討 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の検討、作成 化学療法の均てん化に向けて、がん診療連携拠点病院間で公開カンファレンスを実施 <p>がん診療連携協議会（事務局：奈良医大）で公開カンファレンスの必要性を共通認識し、がん診療連携拠点病院が主体となって取り組むこととなり、Webを利用した公開カンファレンスの試験運用を実施した。次年度は、毎月1回定例的に実施することとなる。</p> 放射線治療地域連携について放射線治療機器のある病院間でのメール会議の実施 <p>2病院のリニアック更新、放射線治療制限に伴う、他院への依頼状況、病院窓口の確認等の把握により、病院間の具体的な連携について必要な情報が共有でき、患者さんへ影響を軽減できた。</p> 診療情報の提供に向け、各がん診療連携拠点病院で院内がん登録データの公開の方向での検討 「奈良県のがん登録(2009年、2010年)」報告書の作成、公表
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム医療の整備、評価方法についての具体案の検討 ○手術療法、病理診断、がんリハビリテーションの必要な施策についての具体案の検討 ○口腔ケア連携体制についての具体的な検討
平成26年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○がん診療連携拠点病院間の公開カンファレンス（Web会議）の定期開催 ○放射線治療地域連携協議会の継続 ○手術療法の実施体制、リハビリテーション等の実態把握と必要な施策の検討 ○チーム医療の整備、評価方法の具体的な検討（相互視察等具体的な評価方法の検討）とその試験的な実施 ○口腔ケア連携体制について情報把握と関係者による連携体制の検討

◆公開カンファレンスについて

- 1) 今年度は、奈良県がん診療連携協議会に化学療法分科会を設置し、Web カンファレンスの試験運用を進めてきた。（平成25年9月17日 5病院参加）
試験運用を進める中で、病院内での環境整備も行い、現在、各拠点病院間で実施可能となった。
- 2) 第2回化学療法分科会では、当日、会場までお越しいただけなかった2病院については、Web 会議システムにてご参加いただき、委員全員参加での開催となった。



- 3) 平成26年度からは、公開カンファレンスを毎月1回定期開催する。
 - ・第1木曜日（代替日 第2木曜日）17:30～18:00
 - ・がん診療連携拠点病院（5病院）で、毎月担当病院を決め、担当病院が事例を提供して、カンファレンスを実施する。
 - ・事例としては、合併症を持っている患者、診断困難事例などを提示し、検討する内容によりカンファレンスの出席者も変わることから、公開カンファレンス開催の1週間前に事例に関する資料を担当病院より参加病院へ情報提供し、各病院で関係職種に公開カンファレンスへの参加を周知する。

→公開カンファレンスの実施については、第2回がん診療連携協議会（2月17日開催）にて承認すみ。

◆化学療法チーム医療研修会について

- ・今年度、国立がん研究センターで実施する「がん化学療法医療チーム養成に係る指導者研修」に奈良県立医科大学附属病院の化学療法チームが参加する予定。
- ・次年度は、研修のフィードバックとして、県内がん診療連携拠点病院の化学療法チーム医療の底上げのための研修会を県がん診療連携拠点病院として実施を予定している。
- ・研修会の方法については、ワークショップやシンポジウム形式など、いろいろな方法があるかと思うので、具体的に検討していきたい。

第4回 奈良県放射線治療地域連携協議会 メール会議 議事録概要

平成26年2月26日

別紙のようなメール送信による県拠点病院（奈良県立医科大学附属病院 放射線治療・核医学科：本協議会事務局）からの報告および協議事項の提出について、6病院の7名からメールでの回答があり、情報の共有と検討を行った。以下はその概要である。

1) 5病院（5病院のリニアックおよび1病院のガンマナイフ）において、今回リニアックを更新した2施設からの紹介で放射線治療を行った患者さんは計約150名であった。その大半は2病院で（T病院：リニアック20名、ガンマナイフ62名、S病院：リニアック約50名）で、他の3病院では3～9名であった。

ただし、ガンマナイフの患者さんの一部はリニアックの稼働に關係なく依頼されていたと思われる。

2) リニアックを更新した2病院においては、2月26日現在、まだフル稼働という段階には至っていないが、いずれでも他院への依頼はほとんど行っていない。

3) 奈良社会保険病院の連携担当責任者が放射線科部長に変更となった。

4) 県立奈良病院が新病院建築に向けた放射線治療の取り組みが始まっている。

5) その他：連携に関する御礼等があったが、特に大きな問題等はなかった。

奈良県放射線治療地域連携協議会 担当者各位

第4回 奈良県放射線治療地域連携協議会（メール会議） 平成26年2月26日

奈良県放射線治療地域連携協議会

平成24年3月3日開催の第1回奈良県放射線治療地域連携協議会で、「各病院の状況に応じてさらに具体的な連携方法を検討するが、原則としてメール会議での協議を優先する」という方針に決まりましたので、ここに第4回協議会をメール会議で開催させていただきます。

今回の協議事項は以下のとおりです。

恐縮ですが、ご回答、ご意見等を、原則として全員に返信でお願いいたします。なお、個人情報、その他の理由で、全員に返信が不可の場合には、事務局担当、奈良医大の長谷川のみにご返信下さい。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。（添付ファイルとメールの本文は同一内容です。）

＜協議事項＞

1) ①天理よろづ相談所病院、②奈良県立医科大学附属病院のリニアック等更新に伴う放射線治療制限への対応にご協力いただきありがとうございました。両院とも、更新されたリニアックでの治療が開始されていますので、現状について情報を共有させていただきたいと存じます。

①天理よろづ相談所病院； リニアック1台等が撤去され、約半年間、6MV-X線リニアック1台体制となり、治療患者の制限、他院への紹介が行われていましたが、既に新しいリニアックでの治療が開始されていると聞いています。

②奈良医大附属病院； 昨年の秋期に、リニアック3台のうち、2台を順次更新し、1台めが昨年11月から、2台目が本年1月末から稼働しています。現在は患者数を徐々に増やしている段階ですが、高精度治療はまだほとんど行っていません。（いわゆる高精度治療は、従来どおり、更新しなかったノバリストで行っています。）今後、さらに、症例数を増やすとともに、新規リニアックでも高精度治療を開始していく予定です。

地域連携協議会として、県内全体の放射線治療状況を把握させていただき、連携体制を強化することによって、少しでも患者さんへの影響を減らすことができればと考えていますので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

なお、異なる複数の治療（例えばリニアックとガンマナイフ等）を行われている場合には、複数の担当者に（別々に）ご回答いただいても結構です。

＜放射線治療施設への地域連携アンケート；質問・意見・他＞

1. 貴院では、上記2病院からの依頼に応じて、放射線治療を実施していただきましたか。

実施した（約　　例）　　実施しなかった　　その他（　　）

ご意見等：

1'. 実施された施設では、本年1月以降、依頼数が減少しましたか。

減少した　　その他（　　）

ご意見等：

*天理よろづ相談所病院におかれましては、可能な範囲で結構ですが、

1. 他院に依頼していた概要（どういう患者さんを何名程度）をお知らせ下さい。

1'. 現在も依頼されることがありますか。

ある　　ない

ある場合には症例の概要：

以下の質問は従来と同様です。変更がありますか？

ある　　ない

変更がある場合には2. 以下も記載して下さい。

2. 連携担当責任者、をお知らせ下さい。

氏名　：

職位　：

連絡先：電話

FAX

e-mail

3. 放射線治療目的で患者さんを紹介する場合の窓口をお知らせ下さい。

連携担当責任者 ()
放射線科（放射線治療科）外来 ()
地域連携室 ()
その他 ()

連絡先等：

4. 現在以下の治療は実施可能ですか。25年度、他院からの依頼に対応可能ですか。

	実施の有無		他院依頼に対応可否		
通常の外部照射	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
定位（脳）照射	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
定位（体幹部）照射	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
強度変調放射線治療 前立腺	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
強度変調放射線治療 頭頸部	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
強度変調放射線治療 その他	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
小線源治療 腔内 子宮	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
小線源治療 腔内 その他	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
小線源治療 組織内 前立腺	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
ストロンチウム（骨転移）	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
ゼバリン（リンパ腫）	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
ヨード（甲状腺癌）	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
全身照射	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
他 ()	はい	いいえ	はい	いいえ	その他
他 ()	はい	いいえ	はい	いいえ	その他

5. 貴院の現在の、放射線治療担当医数、放射線治療専門医数はそれぞれ何人ですか。

専従または専任；放射線治療担当医数（総数）_____名、 放射線治療専門医数_____名
非常勤、他；放射線治療担当医数（総数）_____名、 放射線治療専門医数_____名

6. その他：ご意見等がありましたら何でもご記入下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

奈良県放射線治療地域連携協議会 事務局
奈良県立医科大学 放射線腫瘍医学講座
奈良県立医科大学附属病院 放射線治療・核医学科
長谷川正俊
hasegawa@naramed-u.ac.jp
TEL 0744-29-8908 FAX 0744-25-3434

●緩和ケア・在宅医療部会

開催回数	平成25年 7月17日（水）18:00～20:00 平成26年 1月29日（水）18:00～20:00 計 2回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院（医師）：1名 がん診療連携支援病院（医師）：1名 がん診療連携拠点病院（看護師）：1名 在宅医：3名 関係機関（薬剤師会、訪問看護ステーション協議会、医療社会事業協会、介護支援専門員協議会）：4名 計 11名
平成25年度の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価指標の検討、ならのがんに関する患者意識調査の調査項目の検討、実施 2. 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の作成、検討 3. 緩和ケアの普及啓発 「がん患者さんのための患者必携」の作成、配布 4. 在宅医療資源の底上げ、増加に向けた方策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・各がん診療連携拠点病院で、在宅緩和ケア地域連携研修の実施 ・在宅緩和ケア研修のプログラムの検討
成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ならのがんに関する意識調査の実施、調査結果の分析・検討 2. 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の検討、作成 <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアについては「患者必携」と共に啓発 3. 「がん患者さんのための患者必携」（10,000部作成） 4. 在宅緩和ケア研修会の開催、次年度に向けた研修プログラムの検討 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県立医科大学附属病院でのモデル的な取り組み 10月27日（土）10:00～16:00 奈良医大巖槻会館 ワールドカフェ方式の研修会で、2次医療圏内の在宅医、訪問看護、ソーシャルワーカー等との顔の見える関係づくり 参加者：36名 ・MSW、訪問看護、訪問介護等の各関係団体における、在宅緩和ケアの実態と連携体制における今後の課題についての実態把握
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅緩和ケア研修会プログラムの検討 ・各関係団体から出された、在宅での連携体制についての課題を整理し、次回研修会に取り入れる。 ・介護関係との連携について
平成26年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅緩和ケア研修会の継続実施 ○緩和ケアの啓発について検討

■在宅緩和ケア地域連携講習会

医療機関	開催日時／場所	内容	参加人数
奈良県立医科大学附属病院	平成25年10月27日（日） 10時～15時 厳檜会館	カフェちゅうわ ・ワールドカフェ形式 テーマ「切れ目なくがん患者さんとその家族を支えるため出来ることは何か」	36人
県立奈良病院	平成26年3月13日（木） 18時半～20時半 県立奈良病院 会議室	講義「在宅緩和ケア概論」 事例検討（グループワーク）	22人
近畿大学医学部奈良病院	平成25年12月12日（木） 18時～ 南コミュニティセンターせせらぎ	・一般演題 「Mohs軟膏とMTZ軟膏の使用によりQOLが改善した乳がんの1例」 ・特別講演「緩和ケアにおける鎮痛薬の使い分け」	20人
市立奈良病院	平成26年3月20日（木） 17時45分～19時15分 市立奈良病院 会議室	講演「緩和ケアと緩和病棟」	53人
合 計			131人



■緩和ケア普及啓発

医療機関	開催日時／場所	内容	参加人数 (予定人数)
奈良県立医科大学附属病院	平成26年1月19日（日） 13時半～15時半 檜原文化会館小ホール	講演1「がんと診断されてからの緩和ケアとは？」 講演2「もし末期がんになったら、人生の最期をどこで迎えますか？」	123人 (がん相談：2人)
県立奈良病院	平成26年2月1日(土) 14時～16時半 奈良県文化会館小ホール	講演1「もしがんになったら？」 講演2「あなたは誰に相談しますか？」 講演3「人生の最期をどこで迎えますか？」	150人
合 計			273人



在宅緩和ケアの実態と連携体制における今後の課題について

(経緯)

- 「緩和ケア・在宅医療部会」において検討を進める中、現場でどのような課題があるかを明らかにするため、関係する部会員がそれぞれ会員等を対象にアンケート調査を行った。

(アンケート概要)

①医療ソーシャルワーカー対象

調査実施・報告者	奈良県医療社会事業協会 理事 西井 唯文氏
調査実施時期	平成25年3月18日～4月12日
対象者・数	奈良県医療社会事業協会会員 14名（電話回答者含む）
アンケート項目	Q1 がん患者の退院調整の中で医療と介護の連携が取りにくく感じる場面があるとすれば、それは何に起因していると思いますか? Q2 在宅への退院を円滑に調整しうる要素は何だと思いますか? Q3 その他、がん連携を推進する上で何が重要と考えますか？

②訪問看護対象

調査実施・報告者	訪問看護ステーション理事会 理事 田端 鈴子氏
調査実施時期	平成25年8月
対象者・数	訪問看護ステーション協議会各地域代表 10名
アンケート項目	Q1 がん患者の退院調整の中で医療と介護の連携が取りにくく感じる場面があるとすれば、それは何に起因していると思いますか? Q2 在宅への退院を円滑に調整しうる要素は何だと思いますか? Q3 その他、がん連携を推進する上で何が重要と考えますか？

③介護支援専門員

調査実施・報告者	奈良県介護支援専門員協会 副理事長 湯澤 美代子氏
調査実施時期	平成26年1月25日
対象者・数	介護支援専門員主任研修会参加者 58名
アンケート項目	Q1 基礎資格、 Q2 介護支援専門員経験年数 Q3 がんに関しての研修参加経験 Q4 がん患者のケアプラン作成にあたり、一番重要だと思うことは何ですか？ Q5 がん患者の退院調整の中で医療と介護の連携が取りにくく感じる場面があるとすれば、それは何に起因していると思いますか? Q6 がん患者の在宅ケアの中で医療と介護の連携が取りにくく感じる場面があるとすれば、それは何に起因していると思いますか? Q7 在宅での緩和ケアチームの連携を強化するために何が必要だと思いますか。

在宅緩和ケアの実態と連携体制における今後の課題について

<医療ソーシャルワーカー、訪問看護、介護支援専門員のアンケートから>

1. がん患者の退院調整の中で、医療と介護の連携がとりにくく感じる場面があるとすれば、それは何に起因していると思いますか

①患者、家族に起因するもの

医療ソーシャルワーカー	症状、進行に不安が強く、病院から離れられない 医療処置ができない 症状コントロールの際本人の不安が大きい 在宅での看取りに不安を感じる
訪問看護	告知の内容について本人の理解度や知識 家族構成や同居の有無 家族の思いや覚悟 本人の年齢や人生
介護支援専門員	患者、家族も状態をよくわかつていない 患者が思いを伝えられない

②介護関係者に起因するもの

医療ソーシャルワーカー	症状、進行具合に対しての不安 急変時の病院への要望が多い 支援が消極的 医療的な課題が多いと訪問看護師に一任する
訪問看護	がん患者の利用を積極的に行わない 医療に対する知識不足 介入の遅れ 医療サービスの内容を知らせる
介護支援専門員	退院後の患者の体調が予測しにくい ケアカンファレンスが儀式的で患者の思いが述べられない 本人との思いのずれ 患者、家族の期待に対する支え方

③医療機関等に起因するもの

医療ソーシャルワーカー	入院生活と在宅生活の違いについて理解が乏しい サポート体制の検討や受け入れに時間がかかる 退院に向けた家族指導の支援が遅れる 在宅療養のイメージができていない
訪問看護	地域医療連携室や緩和ケア外来がかわらず退院となる 医療保険での介入が多くケアマネと関係が気うすになる 病状の変化をタイムリーに伝えきれない 病院や在宅医、訪問看護ステーションの力量の格差
介護支援専門員	ケアマネ業務に対する医療者の知識不足 主治医が多忙で連携がとりにくい 医療の観点とケアの観点のずれを感じる 在宅医療の理解不足、介護保険制度の知識不足

2. 在宅への退院を円滑に調整しうる要素は何だと思いますか(介護支援専門員は設問なし)

医療ソーシャルワーカー	十分な情報交換、提供ができるカンファレンスを開催 地域内の訪問看護、在宅医の情報 病院、在宅側との顔の見える関係づくり 普段から地域とのコミュニケーション
訪問看護	各関係機関や家族、本人と退院前にカンファレンスを行う お互いの役割を提示し、実施できることを確認する 退院を決定する医師が、在宅医療の知識を持ってほしい 診断時から病院専門のスタッフと関わる

●地域医療部会

開催回数	平成25年 6月19日（水）17:30～19:30 平成26年 2月12日（水）17:00～19:00 計 2回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院 地域連携担当：6名 在宅医：2名 関係機関（訪問看護ステーション、薬剤師会、保健所）：3名 看護師（病院、診療所）：2名 計 14名
平成25年度の取組	<ol style="list-style-type: none"> 評価指標の検討、ならのがんに関する患者意識調査の調査項目の検討、実施 地域連携クリティカルパスの運用促進のため、コーディネーター研修会の検討・開催 連携ツールについて検討を継続 (連携ツールの作成、試用、修正) 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の検討、作成
成 果	<ol style="list-style-type: none"> ならのがんに関する意識調査の実施、調査結果の分析・検討 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の作成 地域連携クリティカルパスコーディネーター研修会の実施 12月14日（土）13:30～16:00 奈良医大蔵会館 講師：四国がんセンター 副看護師長 船田 千秋 氏 対象：がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院の地域連携室担当者（17名参加） 共有ツールの作成、試験運用、試験運用に係るアンケート調査の実施
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携クリティカルパスの運用促進 ○共有ツールのスムーズな運用 ○地域連携した患者の満足度の把握
平成26年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○地域連携クリティカルパスコーディネーター研修会の継続実施 ○共有ツールの評価 ○在宅がん患者、家族に対する意識調査の実施、分析 ○在宅医療機能調査の実施、ポータルサイトのデータ更新

◆地域連携クリティカルパスコーディネーター研修会について

●研修会の概要

1. 目的

地域において切れ目のないがん医療が提供されるよう、県では、奈良県がん診療連携協議会及び奈良県がん対策推進協議会が協働で「がん地域連携クリティカルパス（私のカルテ）」を作成するなど、地域連携の仕組みづくりの整備を進めている。

今後は、病院内での体制整備が進められ、パスが効果的に活用されるよう期待されることから、パスのスムーズな運用方法等について先進事例から学ぶとともに、関係者が意見交換を行う機会として、研修会を開催する。

2. 対象

がん診療連携拠点病院地域連携室担当者 約20名

3. 内容

- あいさつ がん診療連携協議会 長谷川 正俊 教授(5分)
- 報告「地域連携クリティカルパスの取り組みについて」
がん対策推進協議会 地域医療部会長 吉川 高志 院長(5分)
- 報告「地域連携クリティカルパスの状況について」 県保健予防課(3分)
- 講演「四国がんセンターにおける地域連携クリティカルパスの取組」
- グループワーク「パスの運用を進めるためには」
講師：四国がんセンター 副看護師長 舟田 千秋 氏 (約140分)

4. 日時

平成25年12月14日(土) 午後1時30分～午後4時

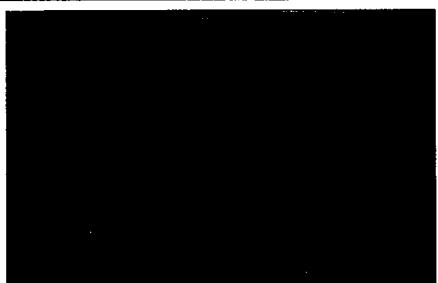
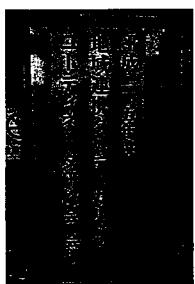
5. 場所

奈良県立医科大学 厳檜会館(檜原市四条町)

●参加者の状況

- ・参加者：17名(6医療機関)【内訳：看護師：3名、社会福祉士：8名、事務職員：6名】

＜当日の様子＞



●研修会参加前後のアンケート結果まとめ 【参加者 17名、回収 17名】

■研修前

1. 研修会の参加動機

項目	回答数
自ら希望して	4名(23.5%)
指名されて	13名(76.5%)

2. この研修で一番学びたいことは何ですか。

キーワード	ご意見
パスの運用	他院での運用状況 パスの具体的な運用方法 スムーズに運用する方策 パスを推進するための方法 バスの運用状況 バスを運用することのメリット、デメリット バスの目的、運用方法 外来での運用について
患者	患者のメリット 患者への具体的な説明方法
連携	院内外でスムーズに連携するにはどうしたらいいか 地域でのネットワークづくり
地域医療連携室・コーディネーターの役割	地域医療連携室が関わっていないところもあるので、基礎から学びたい 連携バスを有効に活用するため連携室の働きについて コーディネーターの役割 地域連携バス運用後のコーディネーターの介入方法 地域連携バスを推進していくために、取り組まなければならないことは何かすべて
院内	院内の周知、推進について 医師への働きかけ方

■研修後

1. ①内容は期待していたものですか。

項目	回答数	ご意見
はい	11名(64.7%)	・運用方法の具体的な流れが確認できた
ふつう	5名(29.4%)	・実務的なことを知りたかった ・バスを使った成功例やプロセスを知りたかった
いいえ	1名(5.9%)	・バスの必要性や利用するのにはどうするか知りたかった

②講義内容は分かりやすかったですか。

項目	回答数
はい	16名(94.1%)
ふつう	1名(5.9%)
いいえ	0名(0.0%)

③グループワークで発言はしやすかったですか。

項目	回答数	ご意見
はい	11名(64.7%)	・メンバーが楽しかった ・協力的だった
ふつう	5名(29.4%)	・時間が短かった
いいえ	1名(5.9%)	・バスを扱った事務をしていないので理解が難しかった

④資料はわかりやすかったですか。

項目	回答数	ご意見
はい	14名(82.4%)	・具体的な数字がわかりやすかった
ふつう	3名(17.6%)	
いいえ	0名(0.0%)	

⑤印象に残ったキーワード

理解・周知・運用・外来から取り組む・外来入院サポート室・がん患者率・コーディネーターの負担・連携先の確保・バスの理解不足・院内外周知が低い・初診時にバス患者割り振り・専門家以外のかかりつけ医にみてももらえるか検討・共同診療・入院前から・橋渡し・早期に介入・連携先に出向く・患者の希望する医療機関へ・作業・地域・全てが対象・メリット・複数回の説明と確認・私のカルテ・郵便・FAX・病院医師は困っていないのでは

2. この研修会で学んだこと

- ・連携開始の時期はできるだけ早く実行する方が、院内外ともにスムーズに連携が図れること。
- ・連携先の確保や啓発が重要。
- ・患者さんを地域でみる。
- ・患者さんを全体でみる。
- ・入院前より看護は始められる。
- ・コーディネーターが内容を理解し、患者のメリットになるよう働きかける。
- ・コーディネーターが意識して患者や医療者に周知する。
- ・知らないことを知ろうとする意欲を持つこと。
- ・運用方法のヒント
- ・医師への働きかけ
- ・院内システムなど柔軟に対応することが大切だと感じた。
- ・もう少し早く説明したり、院内パスに組み込むことでパスにつなげやすい。
- ・活用できる場面を見つけていきたい。
- ・患者、医師、連携先への周知や動機づけ、認識が必要。
- ・医師の負担を軽減するため、コーディネーターとして取り組めることから実行していくことが必要。
- ・パス利用終了後も患者がかかりつけ医と関われるように使うことも一つの意味だと知った。
- ・連携機関拡大のためには、自分たちから働きかける。
- ・コーディネーターの必要性や重要性を学んだ。
- ・他院も同じ悩みを抱えているということ。
- ・患者への介入時期、連携先確保の動きを理解できた。
- ・愛媛の情報管理の方法、パス対象患者の抽出方法が学べた。
- ・パスについて知識を得た。
- ・他県の運用法を知ることができた。
- ・パスの重要性が学べた。

3. 今後の活用について

- ・入院前から介入できるようにイメージを変えていく。
- ・外来看護や連携パスの大切さを病院全体で取り組む。
- ・パスについて患者がどういうメリットがあるか、もう一度見直したい。
- ・院内連携をより積極的に行う。
- ・いつも明るく話しかけやすい状況になるよう努力する。
- ・きちんとした運用方法を確立した中ですすめていけるよう院内に働きかけたい。
- ・本日のようにプロジェクトチームを立ち上げて考える。
- ・院内へパスの周知をすすめたい。
- ・他の医療機関の運用を参考に、パスが算定できるよう結びつけたい。
- ・退院調整で関わるときにパスも頭に入れていきたい。
- ・担当している医師と運用方法や周知について進めていけるか話し合う。
- ・パスの運用方法や周知等について、まずは地域医療連携室内で考えていきたい。
- ・入院前から介入できる手段を考える。
- ・他職種での話し合いの場をつくっていきたい。
- ・紹介先に協力してもらえるか確認する。

4. その他ご意見

- ・定期的に活動内容やネットワークづくり等について情報交換をしたい。
- ・パスが患者のために良いものなのか考える機会となつた。
- ・パスの運用が進めば、次のステップの研修会があつても良いのでは。
- ・パス運用に関して、病院経営者に対して働きかけてほしい。
- ・他院の事例が聞きたい。
- ・グループワークの必要性があるのか、時間が長すぎるかも。進行方法が強引だと思った。

情報共有書

記入日			記入者		施設名		職種	<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> ケアマネ		
年 月 日								<input type="checkbox"/> 社会福祉士	<input type="checkbox"/> その他()			
基本情報 □診療情報提供書参照	患者氏名		性別	年齢	生年月日	血液型	住所	電話番号				
	ふりがな		男		年 月 日生			自宅				
			女					携帯				
	感染症						アレルギー・副作用情報					
	がん病名						転移	なし 肺・骨()・脳・腹膜・肝・リンパ・その他()				
	STAGE			TNM	T N M			その他病名				
	手術	手術日	手術式									
	治療計画						治療状況					
	投薬内容						検査データでの特記事項					
化学療法						放射線療法						
コンプライアンス	□問題なし □問題あり			その他療法								
治療上の問題点						治療上の希望内容						
環境因子 □診療情報提供書参照	家族構成				キーパーソン			続柄		連絡先		
					主介護者			続柄		連絡先		
	サポート体制上の問題点				□人員上							
					□経済上							
					□その他							
	A D L	□自立 □移動要介助 □排泄要介助			コミュニケーション障害	□言語障害 □視力障害 □聴力障害 □その他()						
	家庭・環境	□独居・介護人なし □独居・介護人あり □同居(同居人)			□その他()							
	介護の状況	主介護者の介護意欲 □積極的 □消極的 □拒否的 □不明			介護を援助できる人	□あり(人 · 人数不明) □なし						
	PS	0 1 2 3 4			その他・特記事項							
介護保険	□申請中 □申請予定なし □不明 □取得済み→			非該当	・	要支援	1 2	・	要介護	1 2 3 4 5		
身障	□なし □あり(級／障害の種類)				福祉医療	□なし □あり			公費	□なし □あり		
社会資源	□在宅(かかりつけ)医() □ケアマネージャー()											
	□訪問看護ステーション() □その他											
	□調剤薬局()											
緊急時の対応	紹介手順				連絡先			連絡先				

※情報共有書利用にあたって

本情報共有書はチーム医療をする上で患者にとって必要な情報を一覧にしたもので

記入にあたっては、初めて知り得た情報や、変化のあった情報のみ記入して、郵送等で関係する多職種と情報の共有を図ってください。

診療情報提供書に記載された情報を記載する必要はありません。

情報共有書

記入日	記入者	施設名
年月日		

職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> ケアマネ <input type="checkbox"/> 社会福祉士 <input type="checkbox"/> その他()
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基本情報	患者氏名	性別	年齢	生年月日	血液型	住所	電話番号
	ふりがな	男 女		年月日生			自宅 携帯

現状と評価および対処	疼痛	<input type="checkbox"/> 疼痛なし <input type="checkbox"/> 疼痛あり(部位 :) 痛みの程度()			
	鎮痛処置	<input type="checkbox"/> 麻薬使用なし <input type="checkbox"/> 麻薬使用あり() <input type="checkbox"/> 他の方法() <input type="checkbox"/> 麻薬副作用なし <input type="checkbox"/> 麻薬副作用あり() その他特記事項()			
	消化器症状	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(嘔吐・腸閉塞・便秘・下痢・腹水・嚥下障害・その他()) 対処 :			
	呼吸器症状	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(呼吸困難・咳・胸水・喘鳴・その他()) 対処 :			
	その他症状	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(全身倦怠感・浮腫・発熱・その他()) 対処 :			
	創傷処置(褥瘡等)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(創傷部位 : 深さ : 対策 : エアマット 有・無) <input type="checkbox"/> 処置なし <input type="checkbox"/> 処置あり() その他()			
	処置	<input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 <input type="checkbox"/> 末梢点滴() <input type="checkbox"/> 尿カテーテル <input type="checkbox"/> 吸引処置 <input type="checkbox"/> ストマ(部位 :) その他()			
	食事摂取状況	<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良 : 摂取程度 その他 :			
	その他・問題点など				

説明	告知	病状について		理解度	予後について		理解度
	本人	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良			<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良
家族	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良			<input type="checkbox"/> 良 <input type="checkbox"/> 不良	

思い・希望	がん治療に対する希望		延命治療について		療養場所		
	本人		CPR <input type="checkbox"/> してほしい <input type="checkbox"/> してほしくない <input type="checkbox"/> 決められない	症状悪化急変時の対応 看取り	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 病院() <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 病院() <input type="checkbox"/> その他()	
家族		CPR <input type="checkbox"/> してほしい <input type="checkbox"/> してほしくない <input type="checkbox"/> 決められない	症状悪化急変時の対応 看取り	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 病院() <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 病院() <input type="checkbox"/> その他()		
精神状態	患者	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有【 抑うつ・不安・せん妄・不眠・興奮・認知症・その他()】					
	家族	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有【 抑うつ・不安・せん妄・不眠・興奮・認知症・その他()】					

備考						
----	--	--	--	--	--	--

※情報共有書利用にあたって

本情報共有書はチーム医療をする上で患者にとって必要な情報を一覧にしたもので

記入にあたっては、初めて知り得た情報や、変化のあった情報のみ記入して、郵送等で関係する多職種と情報の共有を図ってください。

診療情報提供書に記載された情報を記載する必要はありません。

●相談支援・情報提供部会

開催回数	平成25年 6月14日（水）14:00～16:15 平成26年 3月 6日（木）14:00～16:30 計 2回
構成委員	県民：1名 がん診療連携拠点病院 がん相談支援センター相談員：2名 関係機関（薬剤師会、市町村看護職員協議会、奈良労働局、保健所）：4名 計 7名
平成25年度の取組	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価指標の検討、ならのがんに関する患者意識調査の調査項目の検討、実施 2. 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の検討、作成 3. 県内医療機関でがん相談に携わる者を対象の研修会に協力 【県がん診療連携拠点病院（奈良医大）主催】 4. 「就労を含めた社会的問題」についての実態把握、研修会 5. がん相談支援センター利用状況調査の実施項目の検討、実施 6. 「がん相談支援センター、患者サロン一覧」のチラシの作成、配布 7. ピアソーター養成研修会の開催
成 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. ならのがんに関する意識調査の実施、調査結果の分析・検討 2. 患者向け療養ガイド、ポータルサイトの掲載内容の検討、作成 療養ガイド（20,000部）作成、ポータルサイト3月末開設予定 3. がん相談支援従事者研修（奈良医大主催）に協力 6月8日（土）9:00～16:30 奈良医大厳檜会館 参加者：21施設 24名 <ul style="list-style-type: none"> ・「がん相談のためのサポートガイド」の説明、周知 ・がん医療における相談員の役割について理解し、相談支援に必要な知識・技術について学ぶ 4. 「就労を含めた社会的問題」について <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業を対象に、「職場環境調査」の実施 ・がん患者を対象に、「ならのがんに関する患者意識調査」の調査項目として、「治療と就労について」の実態を把握 ・産業保健分野との共催でがんと就労に関する研修会の実施 5. がん相談支援センター利用状況調査の実施、結果の分析 がん相談支援センター利用者の6割以上の方が、主治医、看護師等の医療関係者から勧めで利用しており、チラシ等を見て利用された方が少なかったことから、医療機関内で医療スタッフ向けに相談支援センターの役割についての周知について検討することとなる。 6. ピアソーター養成研修会の実施
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ○がん相談支援センターを含めた、県内がん相談体制のあり方（普及、啓発等） ○就労についての相談体制のあり方
平成26年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○がん相談支援従事者研修（奈良医大主催）に協力 ○がん相談支援センターの啓発、相談体制のあり方について検討 ○就労についての取り組みについて 就労についての相談支援体制のあり方の検討 産業医、産業保健スタッフ向けの研修会 県内事業所に向けた情報発信

■がん相談支援従事者研修会 実施報告

1. 日 時 平成 25 年 6 月 8 日 (土) 9 時 00 分から 16 時 30 分
2. 会 場 奈良県立医科大学 厳檻 (いつかし) 会館 3 階 大ホール
3. 目 的 奈良県のがん医療とがん患者の現状について知る
がん医療における相談員の役割について理解する
相談支援に必要な知識・技術について学ぶ
4. 参 加 者 21 施設 24 名 (当日欠席者 2 名) が参加
【社会福祉士 11 名 看護師 6 名 MSW 5 名 保健師 2 名】
5. 担 当 者 抱点病院相談員 9 名 県がん対策係 3 名 ピアソポーター 1 名
6. 内 容

時 間	内 容	形 式	担 当 者
8:30～	受付		
9:15～9:30	オリエンテーション		
9:30～10:00	奈良県のがん医療の現状と対策を知る	講義	県がん対策担当者
10:00～10:30	がん相談の現状 相談員の役割 サポートガイドの説明	講義	がん専門相談員
10:30～10:50	患者・家族の思いを知る	講義	ピアソポーター
10:50～11:05	休 憩		
11:05～12:35	演習Ⅰ相談支援 セカンドオピニオン	GW	がん専門相談員
12:35～13:30	昼 食		
13:30～16:00	演習Ⅱ相談支援 終末期の療養生活支援過程	GW	がん専門相談員
16:00～16:30	まとめ アンケート記入		

■奈良県がん相談支援従事者研修会実施後の調査（平成 26 年 3 月） 結果報告

*6 月 8 日の参加者に、研修会参加後の評価について調査を実施 (24 名中 15 名より回答)

1. 6 月以降にがん相談に対応状況

対応しなかった	2 名
対応した	13 名

<相談内容>

入院相談 退院支援

急性期病院より、在宅調整目的での転院患者に対して、在宅療養支援、受診調整
がん末期の家族の不安などへの支援、他職種との情報共有

ターミナルケア ターミナル期の療養生活、療養場所に選択支援

退院後の治療 経済的問題

知人(末期がん患者の娘)からに相談に対応、国保飛鳥を紹介し落ち着いた看取りができた。

ホスピス・緩和ケアについて

緩和ケア病棟への入院相談 緩和ケアホームの案内

疼痛コントロールを含む終末期の療養生活支援

退院に向けての、患者・家族に対して、終末期の在宅支援や緩和ケア病院への入院、転院相談
精神的苦痛についての相談や家族が在宅で患者に対応する際の思いについて傾聴支援、

2. 研修会の内容で実践に活用できた項目について

1	奈良県のがん医療の現状と対策を知る	5
2	がん相談の現状、相談員の役割	12
3	患者・家族の思いを知る	13
4	演習 相談支援 セカンドオピニオン	5
5	演習 相談支援 終末期の療養生活支援過程	9
6	まとめ	1

<ご意見>

はじめて相談事業やサロンに係わり、利用者の気持ちについて、理解を深めることに活かせている

3. 研修会の参加者や研修担当者、他の医療機関との情報交換、患者支援での連携はありましたか。

■情報交換

- がん患者以外で
- 急性期病院の相談員との転院相談
- 医療療養病棟でのがん患者のみ取り支援、受け入れについて
- 患者本人が緩和ケア病院での緩和ケアを希望された時
- がん相談以外で相談窓口担当者と情報交換

■患者支援での連携

- サロンの紹介
- 退院時の受診調整医療面で連携
- ホスピスへの移行に関して ホスピス・緩和ケアについて
- 転院相談
- 医療療養病棟でのがん患者の受け入れについて
- 緩和ケアについて。緩和ケア病院、在宅緩和ケアの医師と連携

■その他 感想

告知直後から受容に至る経過でのかわり方支援の難しさを改めて感じた。

4. 「がん相談のためのサポートガイド」の活用状況とご意見

■がん相談のためのサポートガイドの利用した項目

1	奈良県がん対策推進計画	1
2	奈良県のがんを取り巻く現状	1
3	がん診療医療機関	3
4	がん相談支援窓口	2
5	がん相談支援の心得	5
6	相談への対応	3
7	参考 相談支援や情報提供に利用できる冊子など	2

<ご意見>

欲しい情報がコンパクトにまとまっていて、わかりやすい。
内容がわかりやすくまとめてあり、様々な相談業務に活用できる。
がん相談員の心得など改めて意識することで患者、家族との関わりがより一層よくなると思う。
実際の相談には活用は少なかったが、自身の学習用として活用する。
連携室内の学習時のテキストとして活用した

<利用しなかった(できなかった)>

相談がなく利用機会がなかった。2名
医療機関同士のやり取り、患者・家族とのやり取りが中心で、情報提供の話題にならなかった。
利用なしで対応できた。 経済的な相談が多かった為。
該当する事例がなかった。
これまでの経験や研修会で学んだ範囲で対応できた。
自身の学習に活用している。

5. 研修会以後に相談支援に関連して新規に開始したことや変更したこと

他の相談員への情報提供
がん性疼痛緩和指導管理料(内服管理)の算定と医師指導協力
在宅での緩和ケアの研修会に参加した。
外来化学療法看護師との連携
「緩和ケア知っていますか」冊子をコピーして必要な患者に提供

6. その他

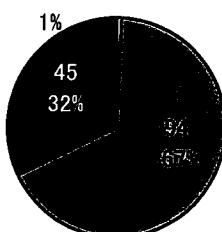
対象患者が少なく、研修会で学んだようなケースに対応することは少ないが、相談員として実りある研修会であった。また参加したい。

がん相談支援センター利用状況調査 結果概要

- 目的：がん診療連携拠点病院等におけるがん相談支援センターの利用状況の把握と、今後の相談窓口の充実のための対策に活用する。
- 調査対象：がん診療連携拠点病院、がん診療連携支援病院のがん相談支援センターを利用したがん患者及びその家族等で、調査の協力に同意を得られた者。
- 調査方法：面接の場合→自記式または聞き取り、電話の場合→聞き取り
- 調査期間：2013年8月1日～9月30日（2か月間）
- 回答状況：140件

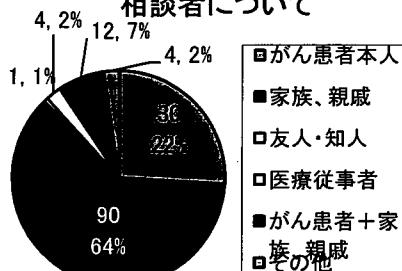
●相談方法について

相談件数(相談方法別)
【H25.8.1～H25.9.30】



●相談者について

相談者について

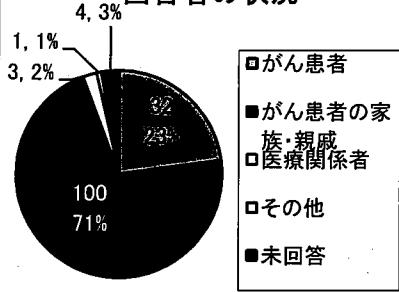


平成25年8月1日～9月30日の2か月間に実施したアンケート回答数は140件、うち来所が94件(67%)、電話45件(32%)であった。

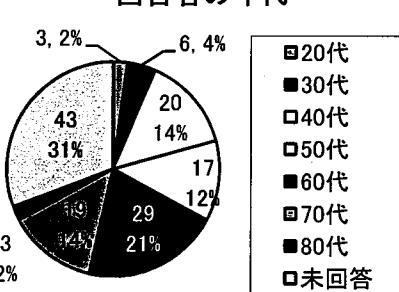
相談者としては、家族・親戚90件(64%)、がん患者本人30件(22%)、がん患者+家族・親戚12件(7%)であった。

●回答者について

回答者の状況



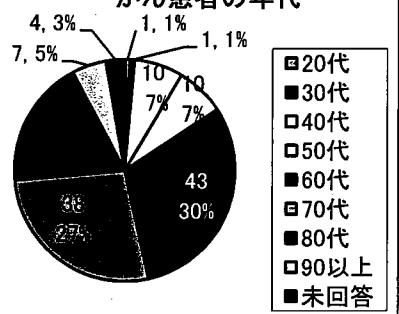
回答者の年代



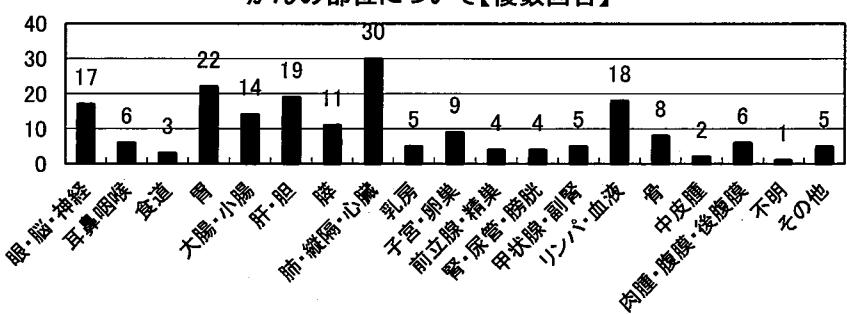
調査の回答者の属性は、がん患者の家族・親戚100件(71%)、がん患者32件(23%)であった。

●がん患者の状況

がん患者の年代



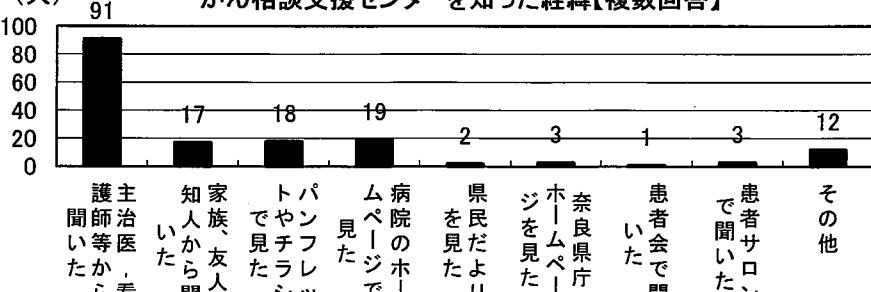
がんの部位について【複数回答】



がん患者の状況は、年代では、20代～50代が22人(16%)、60代以上が114人(81%)であった。部位については、『肺・縦隔・心臓』が30人と最多く、次いで、『胃』22人となっていた。140人の内、46人は部位が複数であった。

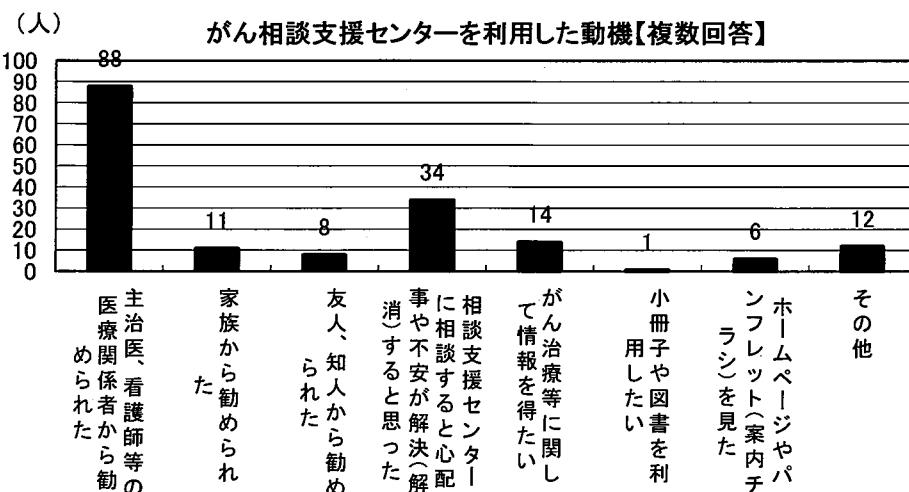
●がん相談支援センターを知った経緯

(人) がん相談支援センターを知った経緯【複数回答】



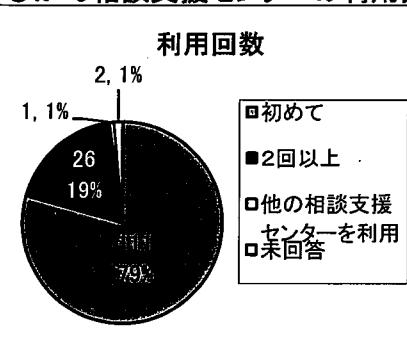
がん相談支援センターを知った経緯は、『主治医・看護師から聞いた』が最も多く91件、次いで、『病院のホームページを見た』19件、『パンフレット・チラシを見た』18件、『家族・知人、友人から聞いた』17件であった。医療関係者からの情報提供が浸透してきていると考えられる。

●がん相談支援センターを利用した動機



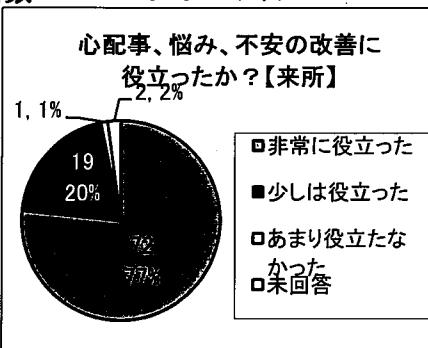
がん相談支援センターを利用した動機としては、『主治医・看護師の勧め』が最も多い88件で、相談行動のきっかけとしては、医療関係者からの助言が大きな役割を占めていると思われる。また、『心配事の解決』が34件で、がん相談支援センターを利用することでがん治療に対する不安の軽減を期待していることが窺える。

●がん相談支援センターの利用回数

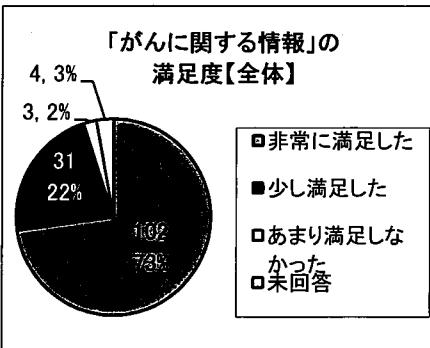


がん相談支援センターの利用回数は、『初めて』111件(79%)、『2回目以上』が26件(19%)であった。2回以上の利用では、2~10回14件、20回を超える方も3件あり、1回のみの相談だけで解決する相談だけでなく、継続相談の必要なケースもあった。

●心配事等の改善について

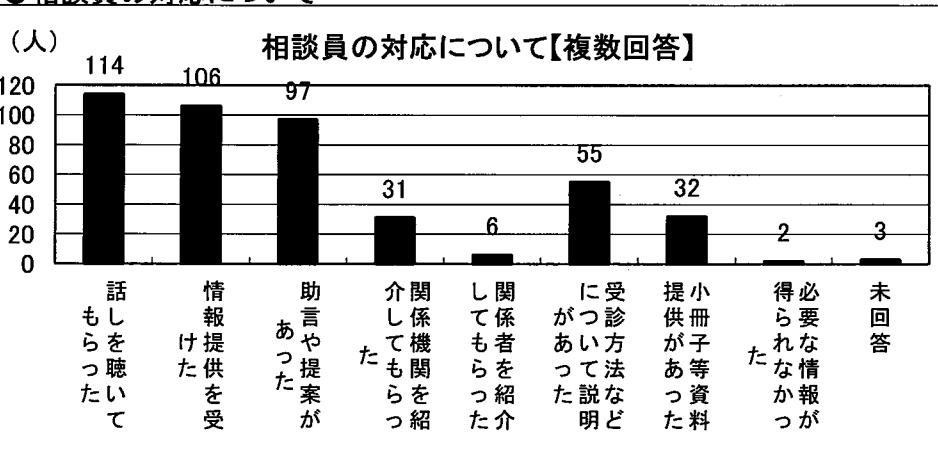


心配事、悩み、不安の改善に役立ったかについては、非常に役立った72件(77%)、少しは役立った19件(20%)と、相談することで心配事の改善に役立っていることが分かった。「あまり役立たなかつた」方もあり、相談内容や対応の振り返りができるような調査項目の検討が必要。



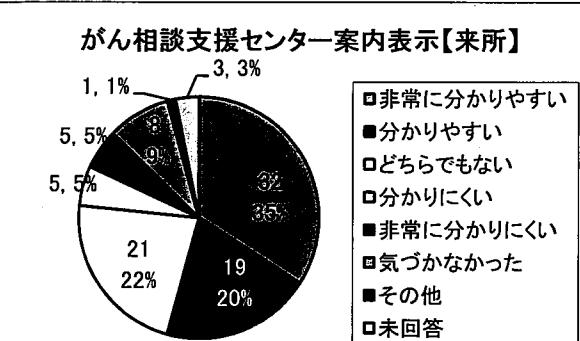
相談支援センターで得た「がんに関する情報の満足度」は、非常に満足、少し満足が133件(95%)、あまり満足しなかつたが3件(2%)であった。

●相談員の対応について



相談員の対応については、『話を聴いてもらった』114件、『情報提供を受けた』が106件、『助言や提案があつた』が97件となっている。『必要な情報が得られなかつた』も2件あった。

●がん相談支援センターの案内表示について



がん相談支援センターの案内表示について、来所相談された94名について集計を行った。『非常に分かりやすい』『分かりやすい』が51件(55%)、『分かりにくく』『非常に分かりにくく』『気づかなかった』が18件(19%)であった。

●たばこ対策部会（奈良県たばこ対策推進委員会）

開催回数	平成25年 5月21日（火）14:00～16:00 平成26年 1月30日（木）14:30～16:30 計2回
構成委員	県民：1名 学識経験者（奈良女子大学）：1名 奈良県医師会：1名 奈良県薬剤師会：1名 奈良県歯科医師会：1名 計5名
平成25年度の取組	1. 禁煙支援アドバイザー研修会 2. 世界禁煙デー等の普及啓発キャンペーン 3. 未成年者禁煙支援相談事業 4. 妊産婦禁煙支援ガイドブックの作成 5. 市町村庁舎の禁煙状況調査
成 果	1. 禁煙支援アドバイザー研修会の実施（講師：高橋裕子教授） 平成25年10月25日(金) 14:00-16:00 かしはら万葉ホール視聴覚室 計17名参加（11市町村、4保健所） 2. 世界禁煙デー啓発ティッシュ（13,000個）、禁煙マラソン妊娠婦コースPRカード（20,000枚）の作成、配布。県下の大型商業施設等で普及啓発キャンペーンを実施。 3. 未成年者禁煙支援相談窓口の設置（H25.9.1～県内5保健所） 相談事例件数：6件（中学生4名、高校生2名：H26.3.17現在） 4. 妊産婦禁煙支援ガイドブックの作成（300部） 県内の産科婦人科医療機関、助産師会、奈良県医師会、市町村、保健所等に配布予定。（H26.3） 5. 市町村庁舎の禁煙実施状況調査と結果公表 市町村本庁舎建物内禁煙実施 H24.4 31市町村→H26.1現在 35市町村 と増加
残された課題	○未成年者禁煙支援相談事業の事例検討及び支援についての評価 ○妊娠婦禁煙支援ガイドブックの活用促進 ○若い女性に対する喫煙防止、禁煙対策 ○市町村庁舎の建物内禁煙化の推進（当面の目標：全市町村庁舎建物内禁煙）
平成26年度計画	○平成25年度事業の継続（禁煙支援アドバイザー研修会、未成年者禁煙支援相談事業、市町村庁舎の禁煙状況調査・公表等） ○妊娠婦禁煙支援ガイドブックに基づいた研修会の実施 ○未成年者禁煙支援相談事業の事例検討、報告会の実施 ○若い女性に対する対策の検討 ○COPD対策モデル事業（新規）

●がん検診部会（奈良県がん予防対策推進委員会）

～受診率向上部会～

開催回数	平成25年 8月2日（金）14:00～16:00 平成26年 2月28日（金）14:00～16:00 計 2回
構成委員	学識経験者：1名 ボランティア：1名 医師会：1名 患者・家族：2名 奈良県がん検診応援団：1名 保険者：1名 市町村：2名 計 9名
平成25年度の取組	<ol style="list-style-type: none"> 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議 <ul style="list-style-type: none"> ・総会開催 ・がん検診普及啓発の取組に関する知事表彰 ・会員による街頭普及啓発 ・受診勧奨ツールの作成、配布 がん予防推進員養成講座の実施 がん検診個別受診勧奨・再勧奨モデル事業の実施 がん検診受診率向上に向けての市町村への個別介入 職域でのがん検診意識調査の実施
成 果	<ol style="list-style-type: none"> 「がん検診を受けよう！」奈良県民会議総会開催 H25.10.10 会員関係者約130名参加、 知事表彰5団体表彰 近鉄奈良駅前、商店街等街頭普及啓発 会員100名参加（2,000個啓発物配布） がん検診普及啓発のキャッチフレーズ、県民会議ロゴマーク作成。のぼり、ポスター、リーフレットの作成、配布 がん予防推進員養成講座実施（H25.9.4） 参加者179名（午前中の公開講座：講師 中川恵一氏） 午後：モデル町のボランティア団体（王寺町 G e t 元気21）グループワーク 59名に養成講座終了証を贈呈 がん検診個別受診勧奨・再勧奨モデル事業の実施（国立がん研究センターの指導のもと） 生駒市：大腸がん検診（48歳、49歳の男女 未受診者に対する再勧奨実施。 H26.1現在の集計：リコール通知後の受診者数1.7倍～1.9倍） 葛城市：子宮頸がん検診（無料クーポン対象者以外の20～39歳女性 個別受診勧奨と未受診者への再勧奨実施。H26.1現在の集計：約3倍受診者数の増加） ・市町村、保健所を対象にモデル事業報告会の実施（H26.3.14） がん検診受診率向上に向けての市町村個別介入 モデル4市町（天理市・王寺町・川西町・五條市）、保健所との打ち合わせ、課題の整理。情報交換会の実施（H25.10.8）→具体的な対策の検討→県の健康寿命を延長する取組推進モデル事業として予算要求 職域でのがん検診意識調査の実施（H25.7） 企業24社（事業主24名、40歳以上従業員500名） <p>*市町村がん検診受診率 23年度→24年度（確定値） 胃がん（6.1→6.4） 肺がん（6.4→7.1） 大腸がん（17.4→18.5） 子宮がん（19.9→20.0） 乳がん（19.9→20.0）</p>
残された課題	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル事業の成果について、県内の市町村への波及 ○受診率の高い市町村の取組分析 ○「がん検診を受けよう！」奈良県民の開催方法の検討 ○個別介入モデル市町の受診率向上対策の実施、評価
平成26年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ○「がん検診を受けよう！」奈良県民会議の開催 (がん検診に関する講演会の実施、街頭普及啓発キャンペーン、会員の活動発表等) ○がん予防推進員の養成拡大（各保健所で養成講座実施、王寺町G e t 元気21へはフォローアップ研修実施） ○受診率向上対策 個別介入モデル市町（天理市・王寺町・川西町・五條市）の取組展開 ○奈良県がん検診応援団会議の開催、応援団と連携した普及啓発

●がん検診部会（奈良県がん予防対策推進委員会）
～精度管理部会～

開催回数	平成25年10月29日(火) 14:00~16:00 平成26年3月25日(火) 14:00~16:00 開催予定 計2回
構成委員	専門医：7名 医師会：1名 検診機関：1名 市町村：1名 計10名
平成25年度の取組	1. 市町村がん検診精度管理調査の実施及び評価（市町村・集団検診機関） 2. 精密医療機関の現状調査の実施（H25.11） 3. 胃がん検診従事者研修会の実施 4. 肺がん検診従事者研修会の実施 5. 奈良県がん検診実施要領の改定
成 果	1. 市町村がん検診精度管理調査の実施（H25.8）及び評価 昨年度調査結果に比較してC, D評価の減少、B評価の増加 2. 精密医療機関の現状調査の実施（H25.11） 登録継続希望意思と登録基準項目を満たしているかどうか 3. 胃がん検診従事者研修会実施 ◆医師、放射線技師対象：胃がん検診の診断技術（症例検討）、フィルム読影実習 H26.3.6 医師40名、放射線技師16名参加 ◆市町村、保健所保健師対象：ピロリ菌の基礎知識 H26.3.14 保健師26名 4. 肺がん検診従事者研修会実施 ◆医師、放射線技師等対象：肺がん検診の診断技術について H26.2.27 医師45名、放射線技師5名、保健師5名参加 5. 子宮がん検診実施要領の改訂（H26.4.1～） 国の指針の改正に伴い 子宮がん検診実施要領→子宮頸がん検診実施要領 子宮頸部細胞診の結果の分類についてベセダシステムを用いるように。
残された課題	○精度管理調査結果に基づく市町村や検診機関への指導 ○個別検診機関に対する精度管理調査の実施（国立がん研究センター研究班がチェックリスト作成中） ○精密医療機関登録基準の見直し ○がん検診従事者研修会の充実
平成26年度計画	○市町村がん検診精度管理調査の実施 ○がん検診従事者研修会の実施（胃がん、肺がん、大腸がん、精度管理） ○市町村がん検診実施要領の改正（内容を確認して必要なものについて改正）